

2023年度リサーチ・コンソーシアム記念事業 ポスターセッション

発表タイトル	豊中市における健康データの利活用に関する調査研究
<p>要旨等：</p> <p>健康政策において注目されているのは、地方自治体の内部で蓄積されている行政データである。市民の健康をどのように可視化し、政策形成につなげるかが問われている。社会的な要因をふまえた市民の健康・ウェルビーイングの増進を図るためには、部局間のデータを接合した分析も必要になってくるだろう。ただし、現状では、そのようなデータの利活用が十分に行われ政策に活かされているとは言い難い。</p> <p>では、庁内の健康データはどのように利活用できるのだろうか。今後のデータ利活用の推進に向けたような課題があるのだろうか。本研究では、①健康データの分析に裏付けられた豊中市民の健康課題の整理②健康データを用いた豊中市における健康政策の分析③健康データの利活用のあり方についての検討の3つの研究課題を掲げ研究を進めることとした。</p> <p>具体的には、国民健康保健データ(KDB データ)を用いた市民の健康課題の可視化や、生活保護受給者の健診データやレセプトデータと庁内データを結合し、生活保護者受給者の健康管理支援施策の効果の分析に取り組むとともに、専門性の高い分野であることから大学・関連部署と連携した共同研究を実施し、庁内健康データの利活用のあり方を実践的に検討した。</p> <p>PR内容(企業・団体・官公庁の会員のみ):とよなか都市創造研究所は、中長期的な視点に立った都市における調査、研究などを行う豊中市の自治体シンクタンクです。昨年度は「健康と都市政策」を大テーマに関連する3つのテーマについての調査研究を行いました。研究内容は機関誌「とよなか都市創造」にとりまとめています。なお、機関誌の全文を研究所ホームページ https://www.tium-toyonaka-osaka.jp/publication/bulletin.html に掲載しています。</p> <p>担当:とよなか都市創造研究所 主任研究員 石村 知子</p>	